令和５年度学力調査実施事業の取組について

三次市立十日市　中学校

１　令和５年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

（１）　国　語

<table>
<tr><th>学年</th><th colspan="4">結果</th><th>【教科指導・学習に対する意識について】
教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題
○これまでの取組の成果　●課題</th><th>【教科指導工夫改善の具体】
課題に対する具体的な取組</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第1学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○「説明的文章の内容を読み取る」及び「文章を書く」事項では，目標値を上回る。
●漢字・文法等の知識において，正答率が低い
●解答形式「短答」の正答率が低い。</td><td rowspan="4">・説明的文章の読解の事前・事後に毎時，漢字学習を継続的に実施するとともに，文法事項も計画的に取り組む。
・授業の様々な場面で，読解とともに考えや感想を書かせるようにする。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>46.7</td><td>54.0</td><td>53.6</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>62.1</td><td>67.5</td><td>65.6</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>60.7</td><td>66.8</td><td>60.0</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第2学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○すべての観点において，全国平均を上回る達成率を挙げることができた。
○学年としての推移を見ると，誤差の範囲内ではあるが，やや上昇傾向にあると推測できる。
●回答方式を見ると，選択式の正答率は高いが，記述式の正答率に難がみられる。</td><td rowspan="4">「態度」については，伝え合いを意識した授業を行うとともに，個に応じた指導を行う。また，言語活動の充実をめざし，生徒が関心をもつような課題を設定する。
「書く」言語活動を授業の中に計画的に位置付けるとともに，自分の考えを自分の言葉で書くなどのノート指導を行う。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>71.3</td><td>71.9</td><td>70.2</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>64.8</td><td>67.6</td><td>62.9</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>52.7</td><td>60.3</td><td>50.6</td></tr>
<tr><td>全体</td><td colspan="4"></td><td>○学年の進行に伴い，自治体平均に近づきつつある傾向がみられる。
●「態度」の達成率と「知・技」の達成率がリンクしていない傾向がある。
●基礎的・基本的な内容とりわけ「知・技」について課題があり，定着を図る必要があると考えられる。</td><td>文中から必要な情報を取捨選択する力が必要である。そのため，文中のキーワードとなる語句や指示語などに注意して読む指導を行う。
字数制限を設けた問題を多く解かせ，定着を図る。</td></tr>
</table>

（2）　社　会

<table>
<tr><th>学年</th><th colspan="4">結果</th><th>【教科指導・学習に対する意識について】
教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題
○これまでの取組の成果　●課題</th><th>【教科指導工夫改善の具体】
課題に対する具体的な取組</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第1学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○学年全体では全国平均の達成率とほぼ同等の結果を出すことができた。
●クラス間の学力差が激しく、他クラスと比較して、平均正答率・達成率で５以上の差がでたクラスがあった。
　以上のことから、学力下位層の学力・意欲を上げることが必要と考えられる。</td><td rowspan="4">態度については、スモールステップで学習意欲が上がるように優しい問題から取り扱って、自信を持たせる。（ひらがなの使用なども認める）
知識・技能については、学習内容を反復して繰り返し書かせたり、漢字をなぞらせることで定着を図る。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>57.6</td><td>60.1</td><td>62.3</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>48.0</td><td>50.6</td><td>53.6</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>50.5</td><td>55.0</td><td>55.7</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第2学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○各授業において、資料を活用した発問や、資料活用の評価問題に取り組ませることで、主体的に学習に取組ませることができた。
●全国平均を下回っている。特に知識・技能の値が低く、基礎的な学力の定着に課題がある。</td><td rowspan="4">単元のまとめや振り返りなどを通して、生徒のつまずきを把握し、苦手分野をおさえた小テストや課題を準備していく。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>45.7</td><td>49.7</td><td>48.0</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>39.4</td><td>45.1</td><td>40.5</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>39.7</td><td>45.0</td><td>40.9</td></tr>
<tr><td>全体</td><td colspan="4"></td><td>○学習課題や発問を工夫することで、主体的に学習に取組ませることができた。
●知識・技能の値が低く、基礎的な学力の定着に課題がある。</td><td>・知識・技能については、学習内容を反復して繰り返し書かせたり、漢字をなぞらせたりすることで定着を図る。
単元のまとめや振り返りなどを通して、生徒のつまずきを把握し、苦手分野をおさえた小テストや課題を準備していく。</td></tr>
</table>

（3） 数 学

<table>
<tr><th>学年</th><th colspan="4">結果</th><th>【教科指導・学習に対する意識について】
教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題
○これまでの取組の成果　●課題</th><th>【教科指導工夫改善の具体】
課題に対する具体的な取組</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第1学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○生徒が興味の持てる教材を準備することで，「数学の勉強が好き」の肯定的な回答が全国より 10.4 ポイント上回った。また，「いろいろな考え方を発表し合うことが好き」の肯定的な評価が全国より 16.2 ポイント上回った。
●全体的に全国平均を下回っている。特に，１次方程式の問題のほとんどが全校平均を下回っている。</td><td rowspan="4">授業でのドリル学習は行っているが，家庭での学習に課題を感じている。家庭で十分に学習できるように宿題等工夫していく。また，１次方程式ができていなかったので，計算についてのドリル学習を十分に行う。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>55.7</td><td>59.2</td><td>58.6</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>33.8</td><td>38.0</td><td>41.0</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>37.6</td><td>41.4</td><td>44.1</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第2学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○「同位角や錯角の性質」や「仮定の示指す内容」についての問いにおいて全国正答率を上回った。
●３観点とも全国正答率を下回っている。</td><td rowspan="4">「数と式」の領域の正答率が低いので，ドリル学習を増やす。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>48.3</td><td>54.2</td><td>55.6</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>30.3</td><td>34.7</td><td>37.9</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>27.4</td><td>31.3</td><td>34.1</td></tr>
<tr><td>全体</td><td colspan="4"></td><td>○１単元に１回以上，生徒が主体的に課題解決できるような問題に取り組んだ。
●基礎学力の定着ができていない。よって活用の問題もできていない生徒が多い。</td><td>授業の中で，くり返し問題を解くようにするドリル学習と，少し応用した問題など，様々な問題に取り組ませる。</td></tr>
</table>

（4） 理 科

<table>
<tr><th>学年</th><th colspan="4">結果</th><th>【教科指導・学習に対する意識について】
教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題
○これまでの取組の成果 ●課題</th><th>【教科指導工夫改善の具体】
課題に対する具体的な取組</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第1学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○生徒が関心をもちやすい課題設定に取り組んだこともあり，他の観点に比べて「態度」の達成率が高い。
●理科の学習が好きかという意識調査に対しての肯定的な回答率が低い。
●全国平均と比較し，「知・技」の達成率が著しく低い。</td><td rowspan="4">授業の課題の難易度設定が生徒の実態に合っていないことが考えられるため，関心はあるが難しく達成感を感じにくい生徒が取り組める難易度から提示する。また，こまめな復習活動（小テストなど）を計画的に組み込み，基礎知識の定着を図る。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>49.6</td><td>56.4</td><td>61.4</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>51.9</td><td>58.4</td><td>59.9</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>62.0</td><td>65.5</td><td>64.9</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第2学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○校内平均は全国平均と比較するとほぼ同程度である。
○活用問題は全国平均を上回っていた。
●基礎問題は全国平均を下回っていた。
●領域別にみると，「地球」に関する問題の正答率が低い。</td><td rowspan="4">授業では，実験・観察を適切に行い基礎の徹底をさらに行う必要がある。また，科学的に探究する活動を計画し，自分の意見を表現する場面を作っていく。また，課題を定期的に行う習慣をつくり，これまでの学習の復習を進めていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>58.9</td><td>61.2</td><td>60.7</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>52.2</td><td>53.4</td><td>50.5</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>53.6</td><td>55.3</td><td>50.6</td></tr>
<tr><td>全体</td><td colspan="4"></td><td>○実験での取り組みを丁寧に行ったことで，主体的に学習に取り組む態度の達成度が比較的高い。
●基礎知識の定着に課題がある。</td><td>実験やそのまとめを終えて，要点の整理や確認問題の実施を行う。</td></tr>
</table>

（5）英　語

<table>
<tr><th>学年</th><th colspan="4">結果</th><th>【教科指導・学習に対する意識について】
教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題
○これまでの取組の成果　●課題</th><th>【教科指導工夫改善の具体】
課題に対する具体的な取組</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第1学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○５ラウンドで大まかな内容を理解することを繰り返しているため，概要を把握し答える問題は正答率が高い。
●文法問題や要点を理解する問題については，正答率が低い。
●書く問題については，正答率が低く，約半数程度が無回答であり，それ以外も解答類型に当てはまらない解答が多く，文脈の理解不足と文法の知識不足が挙げられる。</td><td rowspan="4">・細かな文法規則に気付かせ，定着させる活動を帯活動やラウンドの中で取り入れる。
・話したことを書かせる活動を毎時間取り入れることで，書くことに慣れさせるとともに，表現の定着を図る。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>60.0</td><td>63.7</td><td>65.3</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>39.3</td><td>44.4</td><td>45.2</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>27.5</td><td>34.9</td><td>37.0</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第2学年</td><td></td><td>自校</td><td>市</td><td>全国</td><td rowspan="4">○授業で書く活動を毎回取り入れたため、自分のことについて自由に記述する問題は全国平均を５ポイント上回っている。
●文法問題について正答率が低い。
●長文読解問題に慣れていないため、ある程度まとまりのある読解問題について正答することができていない。
●書く問題での正答率は全国平均を上回っている一方で、無回答率が３割を超えている。</td><td rowspan="4">・ラウンド活動を丁寧に行い、文法規則に気付かせられるよう繰り返し読んだり書いたりする活動を行う。
・毎時間設けていた３分間ライティングの時間を継続し、生徒が使えそうな例文を多く示す。</td></tr>
<tr><td>知・技</td><td>51.7</td><td>55.1</td><td>58.1</td></tr>
<tr><td>思・判・表</td><td>34.7</td><td>38.3</td><td>40.4</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>33.0</td><td>36.3</td><td>36.7</td></tr>
<tr><td>全体</td><td colspan="4"></td><td>○ラウンド活動を行うことにより、１文ずつではなく話の概要をとらえることができている。
●文法を正しく覚えて活用することができていない。
●記述式問題で無回答率が高い。</td><td>・TS インタラクションや本文内容を活用した文法指導を行う。
・書くことに慣れさせるため、毎時間書く活動の時間を設ける。</td></tr>
</table>

２　令和６年度全国学力・学習状況調査に向けた取組

・各教科の「知識・技能」を着実に身に付けさせるために，繰り返し学習で基礎的な知識を覚える活動を行うことと，小テスト等で生徒の「知識・技能」の定着状況を定期的に見取ることを行う。また，その小テスト等で生徒のつまずきを把握し，苦手分野を押さえた課題を用意する。
・説明したり，表現する問題については，無回答率や誤答率が高いため，文章で説明させたり，グループ活動等で伝え合う活動をより多く仕組む。
・文章問題において何が問われているか確認する指導をするなど，問題の解き方の指導をする。